

## 第3章 | 都市づくりの目標像と基本方針

- 1 目標像設定の考え方
- 2 都市づくりの目標像の設定
- 3 都市づくりの基本方針

# 第3章 都市づくりの目標像と基本方針

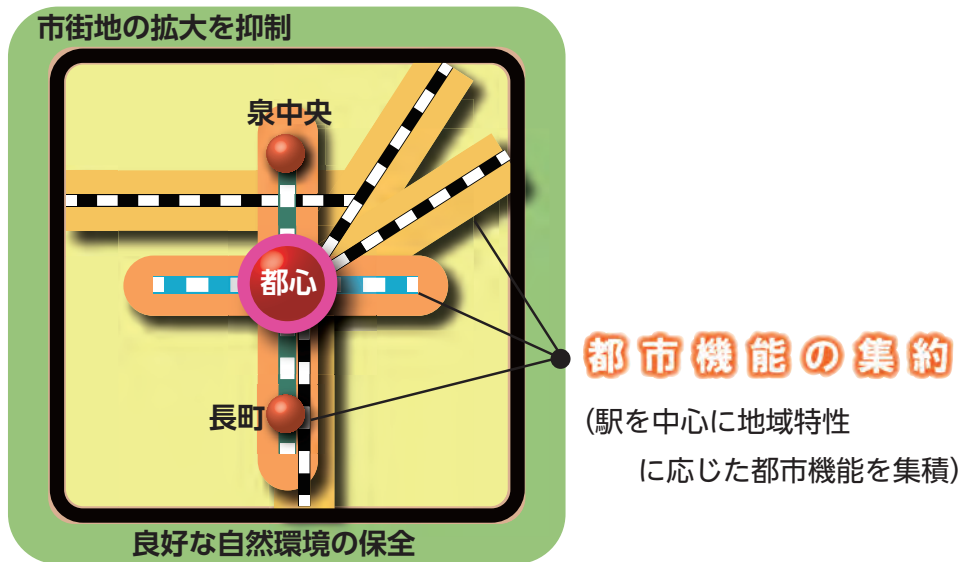
## 1 目標像設定の考え方

### (1) 基本とする都市構造

本市では、1999（平成11）年に「都市計画の方針」を策定して以来、市街地の拡大を抑制し、鉄道を基軸とした機能集約型の都市づくりを継続的に取り組んでいます。

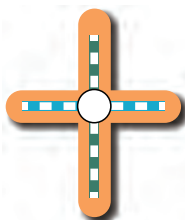
本方針においても、引き続き都心や広域拠点（泉中央地区・長町地区）、地下鉄沿線の都市軸、鉄道沿線に商業・業務、福祉・子育て、医療などの都市機能の集積及び高度化を進め、密度を高めるとともに、鉄道を中心とした公共交通による、多様な都市機能へのアクセス性向上を図り、環境負荷の少ない効率的な都市経営や防災性にも優れた機能集約型の都市づくりに取り組み、豊かな緑との調和や防災に配慮された、魅力的で暮らしやすく、安全・安心な空間が形成された持続可能な都市構造の実現を目指します。

また、本市では市街地が量的には一定程度充足してきており、これまで以上に市街地を「つかう」という視点を持ち、魅力や活力あふれる都市活動が展開される持続可能で多様性に富んだ都市づくりにも積極的に取り組みます。



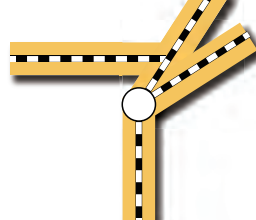
【凡 例】

都市軸



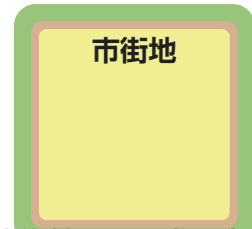
地下鉄南北線及び東西線の沿線

鉄道沿線



JR在来線等の沿線

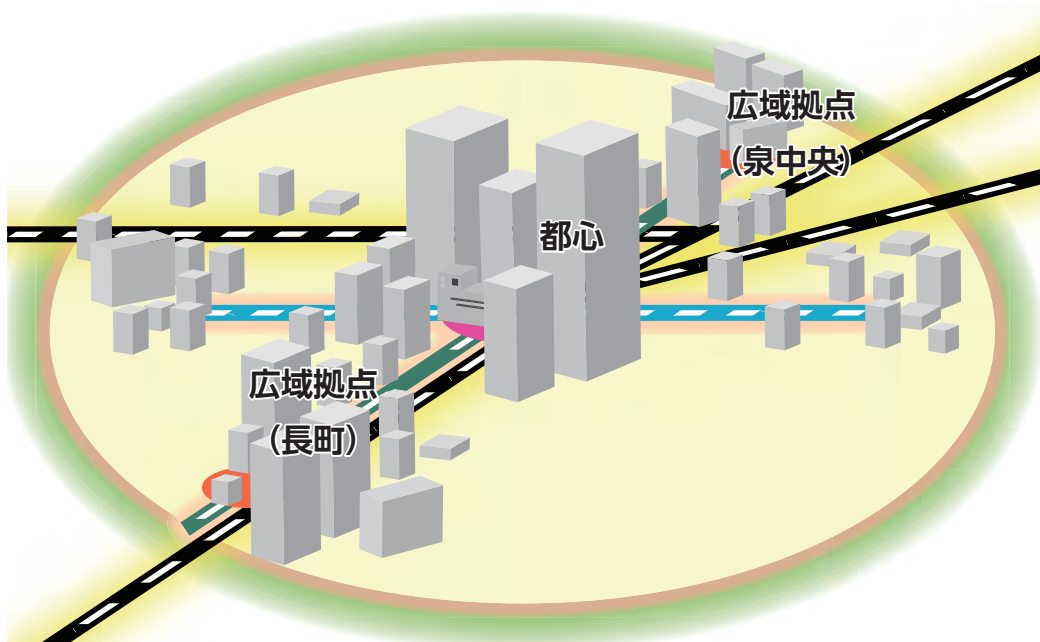
市街地



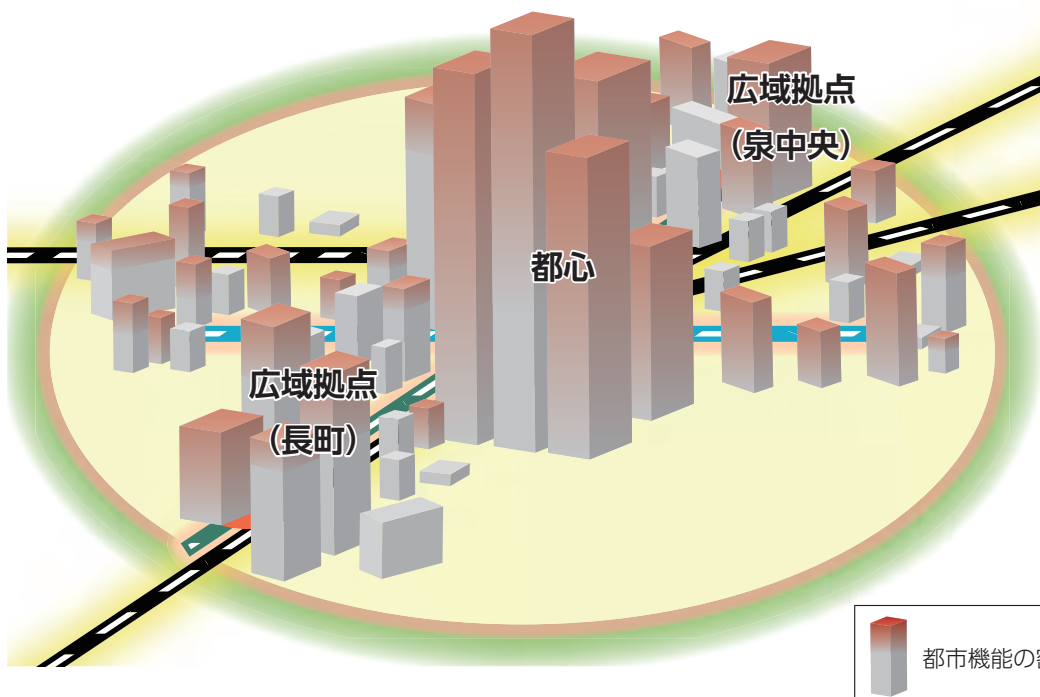
市街地を取り巻く自然

■ 都市機能の集約イメージ

<現在>



<将来>



## (2) 設定の考え方

都市づくりの目標像は、以下のとおり「仙台市基本計画」及び「仙塩広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」を踏まえるとともに、都市づくりの視点や基本とする都市構造に基づき、21世紀半ば（2050年頃）を見据えた都市づくりの目標像を設定します。

### 上位計画

仙台市基本計画

仙塩広域都市計画区域の整備、  
開発及び保全の方針

### 都市づくりの視点

#### 都市づくりの視点①「躍動する都市」

- ・東北の中核を担う都市としての高次な都市機能の集積
- ・東北と世界をつなぐ広域交流拠点（起点）・経済活動の中心

#### 都市づくりの視点②「暮らしやすい都市」

- ・豊かな自然環境と都市機能が調和した都市空間
- ・多様な世代、様々な価値観などによるライフスタイルへの対応

#### 都市づくりの視点③「美しい都市」

- ・質が高く、人との関わりによってより魅力的となる景観や、環境負荷の少ない都市空間の形成
- ・風格と品格のあふれる快適な都市環境

#### 都市づくりの視点④「強靱な都市」

- ・自助・共助・公助が浸透した世界に誇れる防災力
- ・災害に強い都市構造の構築

#### 都市づくりの視点⑤「選ばれる都市」

- ・国内外から人々が交流を求め集い、多様な主体が協働し、生き生きと活動
- ・誰もが挑戦し活躍できる環境
- ・都市としての魅力や活力にあふれ、働く場所や学ぶ・楽しむ場所、暮らす場所として選ばれる

### 基本とする都市構造

「鉄道を基軸とした機能集約型の都市構造」



都市づくりの目標像

## 2 都市づくりの目標像の設定

### (1) 都市づくりの目標像

「選ばれる都市へ挑戦し続ける

“新たな杜の都”」

～自然環境と都市機能が調和した

多様な活動を支え・生み出す持続可能な都市づくり～

本市は、「杜の都」としての豊かな自然環境と都市機能が調和した都市空間や、東北の中核都市としての多様な都市機能を備えるとともに、利便性が高く環境にやさしい鉄道を中心としたまとまりのある機能集約型の都市構造を目指した取り組みを進め、都市の活力や魅力の向上に努めてきました。

また、「学都」として集積する資源や歴史と伝統に培われた独自の文化と、創造的な文化・芸術活動の広がり、市民による多様な活動などが都市の活力源になっています。未曾有の被害をもたらした東日本大震災<sup>\*</sup>は、これまでの防災対策や都市エネルギーのあり方を根底から揺るがしましたが、本市では、様々な立場の方々との協働により、復興の歩みを確実に続けてきました。

これからの都市づくりにあたっては、仙台が持つ強みを生かしながら、人口減少社会や激化する都市間競争、現在（2020（令和2）年）世界規模の広がりを見せている新たな感染症や今後の技術の進展等によって起こり得る社会の変化に的確に対応することも求められます。

仙台が、市民をはじめ国内外の人に、多様な活動の場所として選ばれる持続可能な都市であり続けるために、緑に包まれた美しくゆとりある環境と高次な都市機能が集積した利便性、防災環境都市<sup>\*</sup>としてのブランド力など、これまで培われてきた都市個性を生かし、さらに高めるとともに、挑戦を重ね、新たな魅力や活力を生み出す力強さと、様々な変化に対応するしなやかさによって、その価値を高め続ける都市、“新たな杜の都”を目指します。

## (2) 選ばれる都市の実現に向けて

都市づくりは、日常生活における活動から生まれる身近なものであり、働く、学ぶ・楽しむ、暮らすといった一人ひとりの活動が掛け合わせり、いずれは大きな都市づくりへと繋がっていきます。

市街地が量的には一定程度充足してきている本市では、これまで以上に市街地を「つかう」という視点を持ち、魅力や活力あふれる都市活動が展開される持続可能で多様に富んだ都市づくりにも積極的に取り組みながら、各々の活動の舞台となる働く場所、学ぶ・楽しむ場所、暮らす場所としての質を高め、相乗効果を生み出すことにより、選ばれる都市の実現を目指します。

### ●「働く場所」として選ばれる都市

- ◆首都圏とのアクセス性や「学都」としての知的財産、豊かな自然環境等の強みを生かした、国際競争力が高く、高次な都市機能が集積した魅力的で多様な働く場が生み出される都市
- ◆安らぎの場や交流の場、健康的で快適な生活環境、余暇時間の楽しさ等を備えた、働く人をひきつけ多様な人材によってイノベーション\*が創出される都市

### ●「学ぶ・楽しむ場所」として選ばれる都市

- ◆大学をはじめとする教育機関の集積した学都としての強みを生かすとともに、生涯を通して成長する機会があふれ、まちの活力につながる学びの場が充実した都市
- ◆ワクワクする多彩な商業空間と様々な活動にあふれた公共空間、豊かな自然、食、温泉、祭り、歴史・文化、音楽、スポーツなどの多種多様な資源を体験できるとともに、市民や国内外からの来訪者など、誰もが楽しみ、居心地が良く歩きたくなる都市

### ●「暮らす場所」として選ばれる都市

- ◆通勤や通学、買い物等の利便性と豊かな自然環境が両立した暮らしやすい都市
- ◆増加する自然災害に対応しつつ、年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、誰もが安全で安心、健康的に住み続けられる生活環境が確保された都市

